

京都ノートルダム女子大学 日本語教員養成課程

令和6（2024）年度 自己点検・評価報告書

京都ノートルダム女子大学教育センター
(令和7年6月9日)

1. 教育理念・目標等

本学では、各学科等のディプロマ・ポリシーを定め、『学生便覧』や『学生手帳』のほか本学公式サイトに掲載して周知・共有を図っている。これらを踏まえたうえで日本語教員養成課程では、「日本語教員養成課程は、第二言語として日本語を教える体系的な知識・技能を有し、国内外の日本語教育現場において定められた日本語教育プログラムに基づき日本語指導を行うことができる日本語教師の養成を目的とする。」としている。

2. カリキュラム

本学の日本語教員養成課程（以下「本課程」。）では、50項目を満たす科目に加え、本学独自の科目を設置している。各領域・区分において、それぞれ必要な単位数を設けており、以下の条件を満たしたうえで全45単位以上を修得することにより課程修了となる。文化庁の示す「必須の教育内容」を含むものに対応済みである。

必修：14単位

①社会・文化・地域：2単位以上

②言語と社会：2単位以上

③言語と心理：2単位以上

④言語と教育：6単位以上

⑤言語：8単位以上

合計：45単位以上取得

なお、実習授業（面接授業等）については、必修科目の履修で6単位以上・120単位時間以上履修することとしている。

本課程の適切な運営のため、京都ノートルダム女子大学履修プログラムに関する規程の定めるところにより主担当を置き、必要に応じて教育センター運営委員会で協議を行っている。また、主要科目担当教員の情報共有等のため、適宜、ワーキングを開催している。

3. 履修状況

令和6（2024）年度は、9名が履修（必修科目「日本語教育実習Ⅰ」の履修者数から算出）。修了者数は7名であった。平成21（2009）年度の開設以来、合計で235名が履修し173名が修了した。

4. 進路状況

令和 6（2024）年度修了者 7 名のうち、2 名が日本語教員として就職している。修了者が決して多いとはいえないなか、ほぼ毎年日本語教員として就職する修了生がおり、本課程の学びが生かされている。

5. 改善

主要科目のほとんどが非常勤講師の担当となっており、本学における養成課程そのもののあり方と合わせ検討が必要である。

養成課程を途中で離脱するものも少なくない。履修者はもちろん辞退者においてもアンケートを実施し、状況把握に努めたい。